

ひるば

▲発行責任者
標津高等学校教育振興会
会長 荒谷文明
▲発行日
令和4年3月1日発行

祝 標津高等学校 第68回卒業証書授与式



新しい社会で力を発揮する皆さんへ

標津高等学校教育振興会 会長 荒谷文明

卒業される38名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

この3年間、卒業生の皆さんは、この母校に於いて、個を磨き、友との絆を深め、そして学びの灯を絶やさず、己の力を培ってこられました。それは、掛け替えのない将来を見据え、地道な努力を絶え間なく実践してきた証です。

さて、社会環境が世界的な規模で進化しています。皆さんは、自己の可能性を認め、他者の価値を尊重し、様々な人々と協働しながら、社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手になることが求められます。「Society5.0時代の到来」という言葉を聞いたことがあると思います。「Society1.0狩猟社会、2.0農耕社会、3.0工業社会、4.0情報社会、5.0デジタル革新社会のような新しい社会」という意味です。皆さんが働く世の中は、デジタル化が進行し、ICT活用がスタンダードになります。人が行っていた仕事の大部分をAIが行うと予想されています。それでも、人がやらなければならない仕事は必ず継続します。私は漁業を営んでおりますが、コンピュータを駆使しても魚は獲れません。すべての職業は尊いものです。進学を選択した人も、将来は労働者になります。その時に、皆さんの基盤になるのが「標津高校スピリット」です。難しい課題や問題に出会った時に、標津高校で学んだことを生かして、解決できると信じています。標津高校は、いつまでも「心のふるさと」です。

最後に、本教育振興会の諸活動へのご理解とご協力を賜りました標津町、標津町教育委員会、各学校関係者、町民、保護者の皆様には厚くお礼を申し上げます。今後とも、強い絆により連携・協力体制を関係機関と構築しつつ、益々有意義な活動に鋭意取り組んで参りますので、今まで以上に格別のご支援をよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、卒業生のご健勝とご多幸をご祈念いたしますとともに、北海道標津高等学校のご発展、ご繁栄を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

地域の未来を担う人材の育成

北海道標津高等学校長 森田泰史



厳しい冬も終わりを迎え、春の訪れを感じる季節となりました。

本日、令和3年度北海道標津高等学校卒業証書授与式の挙行にあたり、標津高等学校教育振興会、標津町の教育関係者の皆様、さらには町民の皆様へ、日頃から本校の教育活動に対してご理解と多くのご支援等をいただいていることに心より感謝申し上げます。

本校は、昭和9年4月に標津村立標津実践女学校としてスタートし、約6000名に及び卒業生が全国各地で活躍する伝統校であり、令和5年度には創立90周年を迎えます。創立50周年を記に制定された校訓「求道自琢」、「仁愛恭儉」、「実践躬行」の下、「持続可能な社会の形成者となるための資質・能力を身につける」を学校教育目標として教育活動を進めております。

今年度におきましては、未だ収束が見えない「コロナ禍」の中ではありましたが、可能な限り感染対策のもと、各種行事や部活動など、昨年度中止や延期をせざるを得なかった活動を実施することができました。また、本校生徒達は、様々な制約の必要性を理解し、冷静に対応してくることを誇りに思う一年間でした。

そのような中で、日頃から標津高等学校教育振興会はもとより、標津町教育委員会、町危機管理室、また、標津みらい塾、そしてPTA・地域住民の方々との連携・協力を得ながら、役場・地域・学校が一体となった活動を行っています。その中でも、今年度におきましては、昨年度まで希望生徒（進学対策のみが対象だった「スタディサプリ」への加入支援を、全校生徒対象としていただいたこと、生徒それぞれの希望進路に合わせた個別学習（家庭学習等）での利用はもとより、各教科担任による課題の配信やクラブ活動や朝学習での活用等、様々な場面で有効活用させていただいております。今後は、活用状況の検討・改善を重ねながら、教育活動の中でのさらなる効果的な活用を図って参ります。

最後になりますが、引き続き地域の皆様に支えて頂きながら、地域の未来を担う人材の育成を目指して参りますので、今後とも本校の教育活動に對しまして、ご理解・ご協力の程をお願い申し上げます。

卒業生の言葉



▶就職するにあたり

私は、高校生活の三年間、様々な検定に取り組み学んできました。検定の勉強と学校の勉強を両立し、大変でしたが、とてもやりがいを感じることが出来ました。また、同じ検定を受ける友達とも、より仲良くなることができ、お互い教え合いながら楽しく勉強しました。そのおかげで、学校生活がとても充実しました。進路活動でも、これらは自分のアピールになり、助かりました。

私は、これから社会人になります。高校生活で学んだことをしっかりと生かし、親や先生方への感謝の気持ちを忘れず、立派な人間になれるよう努力します。

3年A組 大木戸 杏瞳



▶進学するにあたり

私は4月から北海道医療大学に進学します。私は将来福祉分野で活躍できる人材を目指しています。そのため、多職種連携科目で、保健・医療・福祉の幅広い知識や技術を身につける事ができ、そして、資格取得に向けてのサポートも手厚い北海道医療大学に進学を決めました。

私は3年間、勉強と部活動に力を入れてきました。勉強では評定を意識し、授業を真面目に受け、定期テストの点数を上げる為に勉強を頑張りました。部活動では部長に任命され、沢山苦戦したこともありますが、周りのサポートもあり、自分自身を成長させることが出来ました。この努力が実り、推薦を得る事が出来ました。合格に向けて沢山の先生方が忙しい中、放課後や休みの日に面接練習をしてくださったり、遅くまで勉強を教えてくださいました。常にサポートしていただきました。また、両親が支えてくれたおかげもあり、自信をもって試験に臨む事が出来ました。本当に有難うございました。大学に進学した際、いろいろな方々と交流し、様々な知識を得て、資格も取得し、無事に卒業して、自分の将来に向けて、更に成長した姿を見せられるように頑張ります。

3年B組 佐々木 衣緒菜



▶在校生から卒業生へ お祝いの言葉

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これまで先輩達を見てきた中で、印象に残っているのは、やはり行事の際の楽しそうな姿です。何事も、仲間と切磋琢磨し、笑顔で乗り越える皆さんは、とても輝いて見えました。普段の学校生活でも、優しく、笑顔で声を掛けてくれたことを覚えています。先輩方は、これから、これまでとは違う場所で、これまでとは違う日々を送ることと思います。楽しいことだけではなく、時には辛く苦しいこともあるかもしれません。そんな時は、立ち止まって良いのです。今まで自分を育ててくれた経験や、大切な仲間を思い、振り返ってみてください。皆さんはきっと、また歩み出せます。この先、先輩方がそれぞれの場所で輝けることを、在校生一同、願っています。

生徒会長 2年A組 渡部 佑菜

担任から卒業生へ お祝いの言葉

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

皆さんと過ごした3年間、この紙面では書ききれないほど色々なことがありましたね。

ときに笑い、ときに喧嘩し、ともに泣き、ともに楽しい時間を過ごした仲間との思い出は一生色褪(あ)せることなく、あなたたちの財産となることでしょう。かくいう私も数え切れない喜怒哀楽を経験させてもらいました。一生忘れることのできない金の思い出です。

さて、4月から就職する人も進学する人も、いずれは社会人として働くこととなります。会社が新入社員に期待していることは、

1. 積極的にコミュニケーションがとれること。
2. 苦手なことにこそ挑戦し、行動すること。
3. 与えられたものはもちろん、自ら目標を掲げて達成するまでやりきること。

この点を踏まえて、次のことを心得て欲しいのです。

1. 自分が会社組織の顔であるという意識を持つこと。
2. ルールを守ること。
3. 自分の都合ではなく、相手の気持ちを大切にすること。
4. 上司の指示に従うこと。
5. 愚痴(ぐち)や悪口を言わないこと。

以上、春から新しい場所で、新しい人たちと新生活を始める皆さんに、私からの餞(はなむけ)です。

どうか身体には気を付けて。皆さんの活躍を期待しています。

3年B組 担任 佐藤 秀史

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。平成最後の年に入学し、令和で卒業する…今後さまざまな書類を書くたびに、このことを意識するでしょう。

3年間で振り返って、やはり今年の学校祭が1番思い出深かったと思います。そして、1年生の時と比較しても、皆さんの「成長」を垣間見た瞬間でもありました。A組・B組、学級旗もダンスも全く方向性が異なるものでしたが、「クラスの一体感」を感じることができた点では、A組もB組もハイクオリティな制作・ダンスだったと思います。「さすが3年生！」と多くの人が思ったことでしょう。準備期間も当日も楽しかった!!

3Aの学級旗には、20+2それぞれのメッセージが書かれています。小生も筆を入れる機会をいただきました。私は皆さんに伝えたかったコト、今後も大切にしてほしいコトを書きました。ここで改めて紹介し、はなむけの言葉としたいと思います。

Appreciate「感謝すること」

Anticipate「先読みすること」

Apologize「謝ること」

今は、4月から始まる出会い、学びにワクワクしていることでしょう。反面、不安に思っていることもあるかもしれません。うまくいなくてメンタルやられそうなときは、「鮭の聖地」出身の皆さんですから、心と体をrefreshしに故郷に帰ってきてください。級友に会い、地元飯を食べる…もし時間があったら高校に寄って話聞かせてください。借金の申込以外には相談に乗りますから。

皆さんと出会えたことに感謝します。たくさんのintangible assetsを手にすることができました。お元気で。

3年A組 担任 中村 公一



見学旅行の思い出

鹿児島・熊本方面
12月12日～15日



見学旅行の思い出

12月12日から15日の間に、鹿児島県と熊本県へ見学旅行に行きました。鹿児島県に着いて思ったことは、気温が高かったことです。北海道の冬に比べると暖かかったので着ていた上着がなくても過ごすことができました。次に、仙巖園に行きました。大河ドラマ「西郷どん」のロケ地になった場所でもあり、2015年に世界遺産に登録された反射炉や薩摩を代表する伝統工芸品の切子もありました。2日目は、桜島に行きました。桜島には、気温が高いせいなのか猫が沢山いました。とても可愛かったです。そして、約100メートルにも及ぶ足湯もありました。3日目は、熊本城に行きました。修復中でしたが、すごい迫力が感じられました。こんなご時世の中、苦勞して、見学旅行に行かせてくれた先生方や保護者には、感謝の気持ちでいっぱいです。貴重な経験をさせてもらい、ありがとうございました。

2年A組 木村 康補

活躍する生徒たち

子ども会議に参加して



「すごいしやすい学校
づくり子ども会議」で
リーダーシップ
12月4日

今回の子ども会議に参加して、地域の小中学生とともに「誰にとってもすごいしやすい学校」とはどんな学校かを考え、またそのためにどのような活動・対策が必要になるかを議論してきました。

そこでは共通の課題として、生徒間のあいさつや行事ごとへの積極的な参加を促すような「明るい雰囲気づくり」が挙げられました。確かに、高校生になるにつれて、そういった人間関係や仲間意識といったものが薄れているように感じられます。

標津高校としては、高校生らしい交流の仕方もあるべきではないかなければなりません。そのためには、我々生徒会が中心となり、子ども会議で出た意見を参考にしながら、より良い学校づくりを行っていきたいと思います。

2年A組 澤田 光希



中高連携事業川北中との
合同卓球練習
1月11日

母校での練習

1月11日に川北中学校で合同練習がありました。川北中学校は自分の母校なので久しぶりに後輩に会うことができました。皆、上手になっていて驚きました。試合形式の練習では先輩として負けたくないという気持ちがあり、いつも以上に気合いを入れて練習に臨むことができました。

今回の合同練習は自分にとって良い刺激になったと思います。これからも練習を重ねて卓球の技術を向上させていきたいです。

1年A組 加藤 悠仁



全国でも活躍!



全国ぼうさい甲子園
「フロンティア賞」受賞
1月9日

私たちは生徒会は、これまで防災活動に力を入れ、取り組みができました。被災地に足を運ぶ、多くの方の体験談を聞いて、地震、津波の恐ろしさ、たくさんの方の事を学ぶことができました。そして、学んだことを少しずつ地域の方や園児、小、中、高校生に伝えていくことができ、とても嬉しく思っています。

今回、私たちの活動が、「ぼうさい甲子園」でフロンティア賞に選ばれました。これからも新しい取り組みなどにもチャレンジしていきます!そして、少しでもいいので、防災活動に目を向けてくれると嬉しいです。

3年A組 中村 はるか

全国ユース環境活動発表大会
「高校生が選ぶ特別賞」受賞
12月16日



今回はWeb開催となったため、発表の動画を撮影し、それを審査してもらう形での参加となりました。パワーポイントでの発表動画の撮影は、なかなか慣れず、緊張してしまいました。しかし、これまで続けてきた、研究の成果を発表し、人生初の全国大会出場を果たすことができました。感動は、とても凄かったです。これからも、今の仲間達と一緒に高い壁を乗り越え、研究に励んでいきたいと思っています。

2年A組 渡辺 勇人



特色ある教育活動

【標津町の特産品を使用した調理実習】



3学年の選択授業であるフードデザインの授業で、10月18日(月)に鮭実習、12月16日(木)に帆立実習を行いました。講師として、標津漁業協同組合の女性部の方5名が来校して下さりました。鮭や帆立の構造についての講義を受けた後に、捌き方や剥き方について教えていただき、生徒達も実践しました。大きな鮭やまだ生きている帆立を目前にし、生徒達も驚いていて、大変貴重な体験をすることができました。鮭を使用した調理実習では、ザンギ、クリームシチュー、あら汁を作りました。クリームシチューでは、標津牛乳を使用しました。標津産の鮭と牛乳をコラボさせて作ったシチューは、格別な味になりました。また、帆立を使用した調理実習では、サラダ、フライ、カレーを作りました。どの料理も、新鮮な魚介類を使用しているため、とても美味しかったです。標津漁業組合女性部の皆様におかれましては、お忙しい中ご協力いただき、心より感謝申し上げます。この授業は、海洋教育パイオニアスクール単元開発部門の一環で行われています。



【ICTを活用した「海洋教育」～双方向型授業の開発～（自然環境系2年）】



今年度の海洋教育は、ICTを活用した教育開発が一つの目標です。8月に（公財）海洋生物環境研究所の加戸隆介教授（北里大学名誉教授）とオンラインで結び、専門分野であるフジツボを通して「潮間帯の生態系と海洋外来種」について学習しました。後日、学んだ事をフィールドで確認するため標津港で潮間帯の生物調査を行い、付着生物間の関係性やそれを取り巻く多様な生態系の理解を深める事ができました。さらに11月には、兵庫県立大学附属中学校1年生と自然環境系科目の生徒と双方向型授業として、ホタテの解剖実習に取り組みしました。本校の生徒は、事前にホタテの解剖を行い、中学生に説明できるようにタブレットを活用し、準備を整えました。当日は、双方向型授業の中で中学生に軟体動物の体のつくりを標津町の特産物であるホタテから伝える事ができました。伝えることの難しさ、達成感をあじわうことのできる時間となりました。情報機器が充実してきた昨今、双方向型授業をさらに充実させていきたいと思ひます。



【野生動物学習「エゾシカの生態と被害について」（自然環境系2年）】



12月8日(木)、2学年の自然環境系科目選択者を対象に、野生動物学習を行いました。講師は、道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所 研究員 亀井利活氏です。前半は、エゾシカの生態について、詳しく教えていただきました。標津町にも多数生息しているエゾシカですが、詳しい生態については知らないことばかりで、とても勉強になりました。後半は、エゾシカによる被害について、標津町における実際の被害データも示しながら説明していただきました。調査結果から、標津町の牧草の約1/4がエゾシカに食べられている可能性があるという点が特に印象的でした。今回の出前講義では、身近な野生動物であるエゾシカについて、被害の発生状況や原因について、その生態との関わりからも深く理解することができました。この授業は、標津高校環境学習の一環として、標津町農林課と協力して実施しました。今後も、さまざまな出前講義を実施していく予定です。



【標津町からの1人1台タブレット貸与による学習活用】

標津高校では生徒に1人1台の端末が割り当てられ、様々な授業で活用されています。1年生の科目「社会と情報」では、ネットワークに関する用語を、端末からインターネットで調べ、「Jamboard」というアプリケーションを使い発表資料を作成しました。生徒の取り組みを見ると、大分操作にも慣れ、生徒同士で協力して取り組む様子が見られました。今後も1人1台端末により、生徒1人1人がより主体的な学習に向かえるよう、学校全体として積極的に活用していきたいと思ひます。



令和3年度
卒業生

進学決定状況

◎大学・短大への進学状況

・旭川大学 ・北海道科学大学 ・北海道医療大学(2) ・北海学園大学
・札幌学院大学 ・桜美林大学 ・釧路短期大学 ・仙台青葉学院短期大学

◎各種専門学校等への進学状況

・札幌ビューティーアート美容専門学校(2) ・札幌スポーツ＆メディカル専門学校(2) ・札幌医薬専門学校
・北海道ハイテクノロジー専門学校 ・札幌ベルエポック製菓調理ウェディング専門学校 ・北海道スポーツ専門学校
・札幌情報未来専門学校 ・経専調理製菓専門学校 ・織田調理師専門学校 ・北海道文化服装専門学校 ・くしろせんもん学校
・札幌プライダル＆ホテル観光専門学校

◎公務員・民間企業等への就職状況

・北海道職員・陸上自衛隊一般曹候補生(3) ・釧路信用組合 ・標津はまなす苑 ・上田組 ・社会福祉法人中標津朋友会
・株式会社ひがし日本イエローハット ・株式会社ネクステージ ・株式会社ハmanoホテルズ
・税理士法人オーレンス税務事務所 ・生活協同組合コープさっぽろ

※令和4年2月1日現在・順不同・（ ）内の数字は人数

進路指導部長より

「コロナ禍」が進路活動に影響を与えるようになってから2年目となった本年度、標津高校としては4年ぶりに進学希望者(23名)が就職希望者(15名)を上回る年となりました。現時点でほとんどの生徒が進路先を決定し、中には道外へ旅立つ生徒もいます。

急速に普及したオンラインでの様々な活動は、オープンキャンパスや応募前職場見学にも瞬間に取り入れられ、本番の面接自体がオンラインで行われることも当たり前になってきました。我々教員にとっても、昨今の目まぐるしく変わっていく世の中に対応を迫られている最中です。しかし生徒たちはそうした変化にも臆することなく、生徒同士で情報交換したり、勉強に励んだり柔軟に対応していました。“変化への対応力”は、これからの時代に最も求められるものの一つです。時代に苦しめられ培われた力は、生徒たちのこの先の人生で充分に発揮されることと思ひます。

最後にはなりますが、みなさまの本校の教育活動、進路活動への多大なるご支援・ご協力に、この場を借りてお礼申し上げます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。